

令和5年8月31日

学校だより



9月号

横浜市立美しが丘東小学校
学校長 藤本 光子

ホームページ <http://www.edu.city.yokohama.jp/es/utsukusigaokahigashi/>

文字で伝える思い

校長 藤本 光子

「〇組のみなさん、おかえり!」

夏休みが明けて、最初の登校日の朝のことです。子どもたちが来る前に校内を見回っていると、ある教室の黒板の文字が目に入りました。久しぶりに会う子どもたちに向けて書かれた、教師からのメッセージです。メッセージとともに大きなひまわりの花の絵が添えられていました。特に「おかえり」という呼びかけから始まっているところに教師の愛を感じて、心惹かれました。学校はいつでもあなたを待っているよ、学校に安心して来てね、そんな思いが伝わってきます。1か月ぶりに教室にやってきて、黒板に書かれた愛情たっぷりのメッセージを目にする子どもたち。どんな気持ちになったでしょうか。書いた教師も子どもたちの反応を楽しみにしていたことでしょう。



私は、子どもと教師の心をより深くつなぐことの一つとして、「文字で伝える」ことを大切にしたいと思っています。ノートへの一言、作品へのほめ言葉、カードへの励まし・・・直接声をかけることはもちろん大切ですが、「文字で伝える」効果は大きいと感じます。「黒板メッセージ」も、経験の浅い教員に必ず勧める方法です。普段は勉強で使う黒板が伝言板に変わることで、新鮮な気持ちになり、わくわくしたスタートを切れるのです。

この日の朝は、その他の教室でも、

「今日からまた、楽しくなかよく、えがおいっぱい すごしましょう!」

「先生は 今日みんなに会えるのを とっても楽しみにしていました!」

「たくさんの行事や長い日常生活も『Gerbera～常に前進・希望をもつ～』を忘れずに
楽しんで過ごしましょう!」

「〇年〇組のみんな、いろいろなことに全力投球(学級目標)しよう!」

「みんな できる みんな で できる」

など、それぞれ担任の思い思いのメッセージが黒板に綴られていました。

学校が子どもたちにとって安心できる居場所であってほしい、そんな願いをもとに、休業中は教職員で様々な研修を行いました。特に、夏休み明けは心身の不調を抱える子どもが多いことから、一人ひとりを大切にして丁寧に見取り、どの子も楽しく過ごせるような取り組みを準備してきました。これらの研修を生かすためには、子どもたちの声や様子、変化をしっかりと捉えていくことが必要です。さらに、保護者の方からの情報も重要な手がかりとなります。お子さんのことで少しでも気になることがありましたら、どうぞ担任や児童支援専任までご相談いただけたいと思います。